

航空レーザデータを活用した林相区分の自動化等による 森林内の地番界（所有者境界）の明確化支援

概要

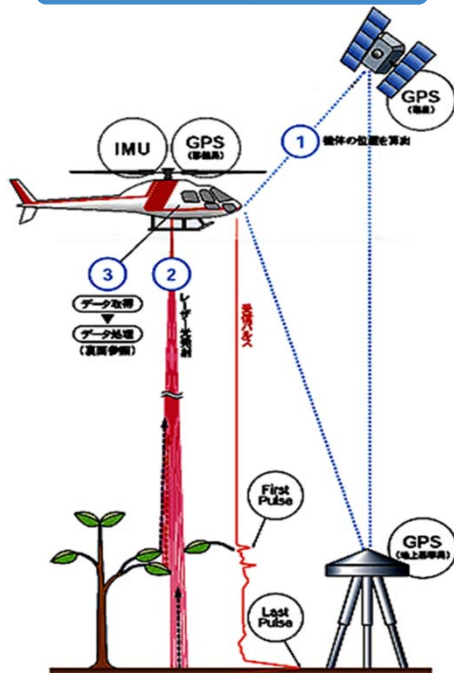
- 施業集約化などの推進が求められるなか、森林所有者及びその境界の位置情報が不明な状況。（公図が現地と合わない）
- 航空レーザ測量で得られる地形や樹木の情報から森林内の地番界（所有者境界）の推定図を作成、明確化の作業を効率化
- レーザの反射強度等から「樹種分類」、標高データ(DSM-DEM)から「樹林高算出」を自動で行い、地番界の判断材料となる林相区分図を作成（赤線枠内が対象となる技術）

導入効果

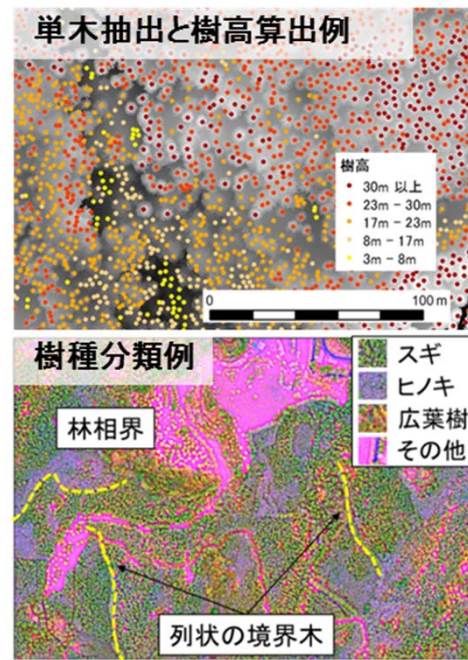
- 地番界の推定に航空写真や地形図では把握の難しい林相の情報を付加し、複合的な判断により精度が向上
- 現地に近い境界データが各種地図情報とGISで表示でき、施業実績の管理や森林計画等の策定が容易

対象となる技術

航空レーザ計測

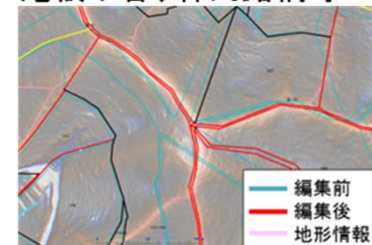


林相区分図作成

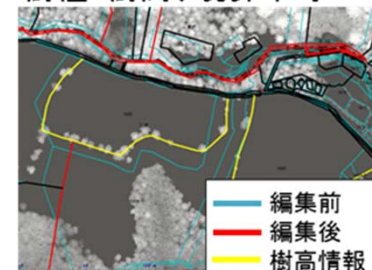


地番界推定図編集

地形情報から判断
尾根や谷、林内路網等



林相（樹木）から判断
樹種・樹高、境界木等



○対象品目

水稲	畑作	露地野菜	施設園芸	果樹	茶	花き
酪農	肉用牛	養豚	養鶏	飼料作物		
沿岸漁業	養殖業	沖・遠洋漁業	その他水産業	林業		その他

○該当するニーズ

項目	林業（1）計画
技術ニーズ	境界管理
具体的なニーズの内容	航空レーザ計測データ、ドローンによる空中写真等により林分の境界を自動で認識する技術

○開発等の段階

開発/実証中	
モニター販売中	
一般販売中	○
その他	

📍連絡先

空間情報事業本部営業企画部
TEL:049-244-4817
<https://www.aeroasahi.co.jp/contact/spatial/>

お問い合わせフォーム

